

今年もまたインフルエンザの季節となりましたが、ワクチン接種やうがい手洗いを励行して予防しましょう。

クリニック通信 30 号が出来ましたのでご一読ください。

院長ブログより 《名医の条件》

「あの医者は名医だ」といった言葉をよく聞きますが、「名選手」「名指揮者」「名シェフ」など「名」のつく職業はなじみ深いものが他にもいくらでもあります。また最近では「カリスマ美容師」に代表されるように「名」のさらに上に行くものとして「カリスマ」なる言葉も流行っていて、「カリスマ主婦」などと、なんやそれ？と思うほど節操なく使われているようです。

「名…」と呼ぶ基準については、例えば野球の「名選手」ならば、ホームラン数や防御率などの優れた選手を呼ぶようであり、「名指揮者」「名シェフ」などは客観的な指標がないとはいえ、演奏のすばらしさや料理の美味しさなど、大多数の人間に認められる何かがあるのでしょう。

では「名医」とは、どんな医者の意味するのでしょうか。例えば外科医ならば手塚治虫の漫画「ブラックジャック」のように、卓越した手術の腕前を持った医師でしょう。週刊誌などにはよく「日本の名医 100 人」といった



記事が特集されていますが、こういった記事の多くは手術数などが基準になっているようです。手術やカテーテル治療などは多分に医師の「腕」が結果を左右するので、「名医」を選ぶ基準として経験数や成績が重視されるのはある意味自然でしょう。

ところで一昔前の医学は経験や勘といった要素がかなりの部分を占めていましたが、昨今の著しい進歩により、治療にも診断にも理論的な裏付けがなされるようになりました。「胃潰瘍」という診断がいったんつけば、私のような平凡な医師でも、大学病院の教授先生でも治療方針にたいした違いはありません。病気の診断も、あらゆる高度な機器がそろった現代では、通常はどんな医師が診断してもほぼ同様な結果が得られます。

またかつては、たとえば心臓の手術にしても、無事手術室から帰ってくるか否かさえ分からないというレベルでした。しかし今は、手術手技はもちろん麻酔や全身管理などの進歩により、大半の手術はある一定レベル以上の外科医が行えば成功するようになりました。つまり、多少の巧拙の差はあるにしろ、手術は適切なトレーニングを受けた医師であれば誰でもほぼ問題なく施行できるようになったといえます。

むしろ、本来誰もが平等に医療の恩恵に預かるためには、特殊な能力を持った人間だけが施す魔術や手品のようなものであってはならないはずですが、マスコミは腕の立つ（これもある意味で語弊がありますが）と言われる外科医を「天才外科医」「神の手」などと話題にしますが、「天才」や「神」でないと出来ないような手術では困りますし、実際そんな手術も滅多にあるものではありません。

そう考えてくると、いったい名医とは何なのでしょう？

少なくとも人間を相手にする臨床医にとって、医療側やマスコミ側ではなく、患者側から「名医」だと認められる条件は、確かな知識や技術もさることながら、多くの人生経験と、それを自分の糧としさらに彼らのために還元できる能力ではないかと思います。

つまり、名選手がそのプレーを、名指揮者がその音楽を通じて人々を感動させるように、名医とは医療を通じて病める人々を感動させられる医師なのだと思います。

患者さんが医療機関にかかる時、医療従事者には身体のみならず、病気以外の様々な側面でも接点を持ちます。より正確な診断のためには、他人には言えないような弱いこと、恥ずかしいこと、その人の過去や家族のことについてさえ、さながら警察の取調べのように細々と聞き出さなくてはならないこともあるのです。

当然ですがこんなことを可能たらしめているのは、両者の間に医師と患者という関係が成り立っているからです。しかもそれは、医師がたとえほやほやの研修医であっても、卒後何十年ものベテラン医師であっても同じなのです。

考えてみればこれは恐ろしいことで、「ちょっと陰部を見せて下さいませんか？」などといったことを一般人が言ったら変態扱いされて警察に通報でもされそうですが、医師という肩書きだけで、診察のために見せてくれるのです。

それでも一般的にあまりに若い医師に対して患者さんが不安を隠せないことが多いのは、知識や技術もさることながら、彼らに対して安心感、信頼感や癒しを与えられる能力がまだ足りないからなのかもしれません。

そういった意味では医師も様々な人生経験を積み、艱難辛苦を舐めたような人の方がよいわけですね。恋愛経験のひとつもない医師や、勉強ばかりでエリート街道まっしぐら、何の苦労もしたことの無い医師に他人の苦しみや痛みがわかるのでしょうか？

私は勤務医時代、研修医にいつも「この患者さんが君の親だと思って治療を下さい」と教えました。自分の親が病気になった時、いったいどんな医師に診てもらいたいかを考えればわかります。やはり、患者さんに対する一生懸命さ、真面目さなどが彼らや家族の心を打つのではないのでしょうか。ある意味あまりにスマートな医師よりも、不器用（といっても程度がありますが）でも真摯な態度の医師の方が安心感があるでしょうし、万が一残念な結末になっても、家族は「ここまで一生懸命やってくれたのだから言うことはない、本当に良い先生に出会った」と言ってくれるかもしれません。

私とてまだ医師になりたての頃は、プライドばかりが先行し、いかにして馬鹿にされないかと考えがちでした。けれどもある程度の人生経験を積み、身を以て分かったことは、医師は決して天才でなくてもよい、その前に正直かつ真摯であれということです。だから患者さんに薬を処方するとき、使用法がわからなければ遠慮なくその場で本を調べてもよいし、そんなことは何ら医師の評価を落とすものでもないと思っています。

私は決してマスコミの言う「名医」ではありませんが、患者さんやその家族が「本当に先生に診てもらって良かった」と感じてくれれば医師冥利に尽きるというものです。

今月の話題 「 関西人のパン好きは神戸から 」

みなさんはパンは好きですか？当院近くにも全国的に有名なパン屋さんがありますよね。神戸の方は好みのパン屋さん、さらに朝食にはこの食パンと決まっているという洒落た話も聞いたことがあります。県外から来た私にとって神戸はパンが美味しい街というイメージでしたが、確かに神戸には至る所に美味しいパン屋さんがあり、パン好きの私にはたまりません。



…神戸からパンが広まった！

さて、ご存知の方も多かもしれませんが、関西人のパン好きの起源は神戸にあるそうです。

1868年の神戸港開港に伴って、西洋文化の伝来と外国人の増加で、西洋の食文化に欠かせないパンが製造販売されるようになりました。そのうち日本人もパンに魅了され、神戸のパン文化が根付いたそうです。その後、パンに敏感な反応を示したのが京都で、神戸でパンが流行っていると聞くと神戸でパン作りを学び、京都に広めたそうです。仕事の合間に手軽に食べられるパンは京都ですぐに大人気となったとのこと。

…パン消費量は京都がトップ！？

総務省によると、2014年から2016年では京都市がパンの購入金額と数量のいずれもトップで、神戸市は金額で2位となっています。近年は京都市と神戸市が首位争いを演じています。

職人の多い京都では仕事の合間のおやつとして手軽に食べられるパンが好まれるからと考えられています。確かに食パン（食事系のロールパンやフランスパンを含む）に関しては、購入金額で神戸市がトップで京都市は8位、食パン以外のパンでは京都市がトップになっています。このことは、京都市が牛乳やバター消費量も全国トップとなっているのと関係もありそうです。

京都人に負けないように、皆さんも美味しく手軽に食べられるパンを健康的に食べて首位に返り咲けるように頑張りましょう！

(看護師Nより)

じむこらむ 「育児の常識は時代とともに変わる」

当院では、今年の7月に、長年勤めてくれている事務スタッフOさんに待望のベビーができました。それに続くかのように、なんと若手の看護師さんたち2人も新しい命を授かっており、当院は今まさにベビーラッシュです(笑)

さて、昔は良いとされていたことが現代ではダメとされる様なことがしばしばありますが、育児に関してもそうです。

たとえば離乳食の時期については、

昔は… 遅くとも生後5か月頃から始めるのがよく、慣らせるために生後2か月くらいから果汁を飲ませていた。

でも今は… 生後6か月頃からのスタートで十分！

それから離乳食の与え方についても、

昔は… 大人が口の中で噛み砕き、それを赤ちゃんに与える人もいた。

でも今は… 大人の口の中の虫菌が赤ちゃんに移ってしまうので、ダメ。スプーンなども共有しない。

他にも変わってしまったことがたくさんあります。

でも、あまり神経質になりすぎないようにうまく取り入れて、赤ちゃんが幸せになるよう皆で協力しあえたらいいですね。

(事務スタッフMSより)

離乳食について



昔は慣らせるために2か月くらいから果汁を飲ませていましたが、今では、6か月以降からのスタートで十分。

お知らせ 睡眠時無呼吸症候群の検査について

夜中のいびきがすごい、呼吸が止まっている、昼間の眠気がひどい、などの症状がある方は睡眠時無呼吸症候群に罹患している可能性があります。現代人に増えているこの病気は、循環器系や中枢神経系に悪影響を及ぼし突然死のリスクもあります。当院ではこの病気の検査が簡便に行えますので、ご希望の方はお申し出ください。

☆クリニック通信のバックナンバーをご希望の方は、受付でお申し出ください。
院長ブログはHPからリンクしていますので、他のブログもぜひご一読ください。

おおかど循環器科クリニック

循環器科・呼吸器科・外科

院長 大加戸彰彦

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通 7-1-13 神戸芸術センタービル内医療モール 4F

TEL 078-855-9151 FAX 078-251-5033

e-mail aki-ohkado@ohkado-heart-clinic.com

HP <http://www.ohkado-heart-clinic.com>

診察時間 午前9～12時・午後4～7時 木・土曜日午後、日祝日は休診